先進的なファクターを
第20回中央福祉学校

11月17日から18日にかけて、部落解放第20回中央福祉学校が大阪・HRCビルでひらかれ、和歌山から平見良太・生活労働運動部長をはじめ4人が参加した。

はじめに、吉岡正博・中央生活労働運動部長から開会あいさつを受け、北口末広・大阪府連委員長の地元あいさつがあり「部落解放運動の現状と課題」について山崎鈴子・中央生活労働運動部副部長から提起を受けた。

あいさつする吉岡正博・中央生対部長

つづいて、講義①の「丹波市連協と活き活き市を取り組んで」～産地直売の取り組み～を兵庫県連上の島支部の川面千鶴江・女性部長から、交流先の谷田豊明・丹波市支部連絡協議会農産物交流事業部会事務局長から「農産物交流事業に取り組んで」について、それぞれ交流をはじめた経過や支部での取り組み内容、成果について報告を受けた。講義②の「加島～湖南甲賀の取り組み」について、平田純博・社会福祉法人加島友愛会理事長から受けたあと、講義③「向野・富田林～甲賀地域との交流事業について」、田村賢一・富田林支部長から15年にわたる交流事業の内容や相互にいきいきしながら得た思いなどが報告された。

翌日は、講義④として「今後隣保館が取り組むべき地域福祉課題を明らかにする実態調査」について、中尾由喜雄・全隣協常任顧問から昨年実施された実態調査の概要版をもとに説明を受けた。講義⑤「隣保館を核とした人権のまちづくりの創造」と題して、大北規句雄・中央生活労働運動部員から、まち全体を福祉施設（特養）としてみることで、排除と忌避のないまちづくりをめざし、医療法人と連けいが取れれば、地区はまちづくりの先進的なファクターになりえる。小規模多機能型居宅介護施設を、隣保館を拠点に展開することで地域のなかで最後まで住み続けられるという提案について、厚生労働省から昨年9月に発表された「生活支援戦略」中間まとめの概要を交えて説明された。最後に、吉岡部長の閉会あいさつで2日間の日程を終えた。

中尾由喜雄
全隣協常任顧問

今後の日程

- 2/1　全国狭山活動者会議・住民の会交流会（東京）
- 2/2～3　第1回全国女性活動者会議（名古屋）
- 2/15　人権啓発シリーズ講座第2回「更なる人権啓発の充実をめざして」（プラザホープ）
- 2/20　講演「危機をどう乗り越えるか」（プラザホープ）
- 2/22　狭山ビラ統一行動
- 教育文化運動部長会議（香川）
- 青年対策部会議（県連）

保育交渉

現状にあった施策を
和歌山県

商工会議所で昨年11月3日におこなわれた和歌山県保育交渉では、「和歌山県同和保育所基本方針」を基本におこなわれてきた同和保育の成果や課題、今後の子育てへの基本姿勢を問うた。

県・子ども未来課

幼保一元化など、国の新制度が施行される際には、県と市町村で慎重に議論や協議をし、現状を把握するため市町村から県に報告書をあげるよう提案した。現在の就労や生活実態、子育て不安が少子化問題につながり、和歌山県の人口も減少傾向にあることをふまえ、地域の実態に応じた子育て支援や保育サービスの充実が必要であり、保育にかかる予算拡大や新たな制度が必要であると強く訴えた。

また、保育所の民営化や給食業務の民間委託、指定管理者制度の導入についても、子どもへの影響を第一に考えること、日常の子どもの健康管理のために、各保育所に常駐の保健師を設置することを求めた。

子育て支援センターの設置では、課題のある同和保育所に設置されていない状況をふまえ、現状の子育て支援センターにとらわない同様の機能をもった子育て支援制度とそれに対する予算措置を強く訴えた。

日本初の人権博物館
リバティおおさかの存続を求めて！

大阪人権博物館（リバティおおさか）は、1985年に「人権歴史資料館」として開設され、日本で初めての人権博物館として多くの来館者を受け入れてきた。しかし、今年4月に橋本徹・大阪市長は「子どもが夢や希望を抱ける内容になっていない」として、来年度以降は補助金ゼロを打ち出した。これをうけ、多くの個人や団体が呼びかけ人となり7月に「リバティおおさかの灯を消すな全国ネット」が設立され、署名活動やカンパ活動が広がっていった。

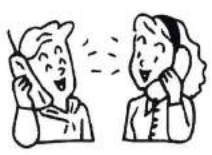
和歌山でも解放同盟を中心に署名運動を展開し、14、000筆余の署名を集め、全国では23万8851筆の署名を提出した。

また、署名だけでなく、リバティおおさかを見学するとりくみもおこなっている。11月29日には、和歌山同和問題企業連絡会（和歌山同企連）が現地学習会として、リバティおおさかを見学し、「太鼓と皮革のまちを歩く」というフィールドワークをおこなった。

12月2日には、県共闘会議の構成団体より26人が見学。学芸員の解説のもと「在日コリアンの歴史と生活～鶴橋から生野コリアタウンを歩く」というフィールドワークをおこなった。

日本で初めての差別・人権問題に関する総合博物館として重要な役割を果たしているリバティおおさかの存続にむけ、さらなる支援の輪を広げていかなければならない。

支局からのお知らせ


お気軽にお電話を！

和歌山支局では、各支部でのとりくみを積極的に紹介していきたいと思います。支部活動や子ども会活動など、支局までお知らせいただければ、取材に走ります。もちろん、投稿記事も大歓迎！　写真を添えて支局までお送り下さい。

（発送先）〒640－8314
和歌山市神前405－3
部落解放同盟県連合会内
解放新聞和歌山支局宛